

市民意識調査票に関する市民福祉推進委員会からの意見について

資料3

令和4年11月29日に開催した、市民福祉推進委員会でご議論いただきました内容を、以下のとおり取りまとめましたので報告いたします。

番号	調査票	項目	設問No.	ご意見	回答
1	共通			LINEユーザーでない市民も回答できるよう、LINEでの通知の他、市HPでの周知と回答先URL掲載もお願いしたい。（調査の正確性を乱すなりすましでの回答等は認められない等の記載をしていただければ良い。）	LINEでは調査ページのリンクをお送りします。市のホームページにも掲載させていただきます。
2	共通			回答に必要な時間が、説明文の中に書いてあると良い。	対応いたします。
3	共通			実現は難しいと思うが、アンケートを答えた方に抽選で何か当たるなど、副賞があると回答意欲が湧くのではないか。	実現は難しいですが、今後の検討課題とさせていただきます。
4	共通			1人の方が複数回回答することを防止するシステムはあるか。	1つのIPアドレスにつき回答可能回数は1回となります。
5	共通			前回の調査項目から外した項目について、本当に外して良いのか、再度確認した方が良い。特に子ども調査は従前調査と全く別の調査になっている。今まで追ってきた調査項目を聞かなくても良いのか。	子ども調査について、ヤングケアラー及びひきこもりに重心を移した調査としておりますことから大幅に内容を修正いたしました。
6	共通			内容が前回と異なる調査になっているため、調査趣旨や変わったところの説明等、前置きがあると良い。	趣旨説明を加えさせていただきます。
7	市民一般			回答者が何のためのアンケートなのか分かるように説明があると良い。	趣旨説明を加えさせていただきます。
8	市民一般			調査数が多いため、途中で回答をやめてしまう人もいないか。回答意欲が湧くように、アンケートの趣旨説明等があると良い。	趣旨説明を加えさせていただきます。
9	市民一般			項目41（前回）のように、市民に意見を聞く設問があった方が良い。	設問数の関係上、加えないこととしました。
10	市民一般	<A>本人の基本情報	問1	高齢者の年代別のデジタルデバインドを調査する意味でも、選択肢に「80代以上」を加えても良いように思った。	「80代以上」を加えました。
11	市民一般	<A>本人の基本情報	問1	70歳以上人口の割合が大きいようなら、70代と80代以上に細分化した方が良い。	「80代以上」を加えました。
12	市民一般	<A>本人の基本情報	問3	選択肢の順番として、1→3→2→4のほうが不自然でないように思う。	対応いたしました。
13	市民一般	<A>本人の基本情報	問4	「配偶者」とまでは呼べない恋人との同棲や、友人とシェアハウスをしている若者もいるかと思う。選択肢10として「恋人・友人」を加えても良いように思う。	対応いたしました。
14	市民一般	<A>本人の基本情報	問11	選択肢6は「人とのコミュニケーションに『情報通信機器』は使っていない」としたほうが丁寧かと思う。	対応いたしました。
15	市民一般	<A>本人の基本情報	問11	あなたがコミュニケーションを「する」際に→「とる」際に、に変更すべき。	対応いたしました。
16	市民一般	社会的孤立・孤独について		大テーマ名が「社会的孤立・孤独」だと自分とは関係のないテーマと捉える方が多いのではないか。「<D>外出（ひきこもり）の状況について」のように、長短を併記した方が良い。例：「社会とのつながり・社会的孤立について」など。	対応いたしました。
17	市民一般	社会的孤立・孤独について	問16	選択肢8として「地域のサロンや居場所」のように2・5とはやや異なる地域参加の機会についても選択肢に加えても良いように思った。（南部の拠点ができることで今回調査よりも次回調査のほうが回答者が増えることを期待したい。）	対応いたしました。

番号	調査票	項目	設問No.	ご意見	回答
18	市民一般	社会的孤立・孤独について	問17	孤独について尋ねる質問かと思うが、「さみしい気持ち」についてもう少し具体的に記述したほうが回答しやすいように思う。	「孤独感」と追記いたしました。
19	市民一般	<D>外出（ひきこもり）の状況について		現状、ひきこもり状態の定義のみ記載されているが、ひきこもり状態の方が回答しやすいよう、調査の趣旨と市としてひきこもりの方への取り組みを進めている旨を明記した方がよい。	対応いたしました。
20	市民一般	<D>外出（ひきこもり）の状況について		「本アンケートにおけるひきこもり状態にある方とは…」の①について、「仕事・学校・家庭以外の人との交流などの社会参加ができない状態」という表記が誤読を招く恐れがある（「仕事・学校・家庭」以外の人との交流がない状態とも読める）ため、問20に記載のとおり「仕事や学校に行かず、家庭以外の人との交流などの社会参加ができない状態」という表記で良いように思った。	厚労省の定義を記載いたしました。
21	市民一般	<D>外出（ひきこもり）の状況について	問20で「1 いる」と回答した方へ	「疑い」を「可能性」、「者」を「方」に替えるなど、当事者の方が回答する時に不快感や疎外感を感じにくい表記にさせていただけると良い。	対応いたしました。
22	市民一般	<D>外出（ひきこもり）の状況について	問20で「1 いる」と回答した方へ	者一方に変更すべき。	対応いたしました。
23	市民一般	<D>外出（ひきこもり）の状況について	問24	ひきこもり状態の方なので、外出状況が1～3に該当する方はいないのではないかと。	1～4について削除いたしました。
24	市民一般	<D>外出（ひきこもり）の状況について	問26	選択肢9で「発達障害」を1の「疾病や障がい(精神的なもの)」と区別した理由が気になる。発達障害がひきこもりのきっかけになると誤解を招くのではないかと。選択肢9は「性格的なもの」のみ（あるいは加えたとしたら「発達上の特性」など）としても良いように思う。	性格的なもののみとしました。
25	市民一般	<D>外出（ひきこもり）の状況について	問26	選択肢10 事故や犯罪被害 に「加害」を加えた方がよい。加害者になったことがきっかけでひきこもり状態になる可能性があるため。	対応いたしました。
26	市民一般	<E>再犯防止について	問27	選択肢6 教諭師・7 篤志面接委員など市民は普段聞きなれていないのでルビがあった方がよい。	対応いたしました。
27	市民一般	<E>再犯防止について	問28-2	「犯罪」を身近に感じていない市民にとっては、前置きなく犯罪に関する質問があると困惑したり、拒否反応が出る可能性がある。また調査目的も見えてこない。回答者にとって資料が不足しているため、前置きの説明等があるとよい。	市内で頻発している犯罪を列挙し各犯罪に対する意識を確認いたします。
28	市民一般	<E>再犯防止について		再犯防止に福祉的支援が必要なことを、回答者がイメージできる資料等をアンケートに添付できるとよい。	丁寧な説明をさせていただいた上で、設問の組み立て等を検討してまいります。

番号	調査票	項目	設問No.	ご意見	回答
29	市民一般	<E>再犯防止について		回答者が再犯防止について身近に感じられるような前置きの説明があると良い。	丁寧な説明をさせていただいた上で、設問の組み立て等を検討してまいります。
30	市民一般	<F>避難行動要支援者支援について		「自動起動機能付きラジオ」の説明の最後の一文『「個別避難計画」とは、避難行動要支援者ごとに、要支援者について避難支援等を実施するための計画』の説明の位置づけが分かりづらい。（（５）から繋がる説明なのか、独立した説明なのか分かりづらい。）	logoフォームにおいて分かりやすく表現いたします。
31	市民一般	<F>避難行動要支援者支援について	問32- 2	選択肢の四角が2つあるため、不要な方を削除して欲しい。	対応いたしました。
32	市民一般	<G>地域の支え合いについて	問39	選択肢3を回答した方に、施策に反映できるよう、何が阻害要因となっているか（休日に単発で気軽にできる活動程度であればできそうか、きっかけがないのか、有償ボランティアであれば取り組んでみたいか等）を尋ねたい。	成果指標を設定できるよう抽象的な設問を入れた経緯があります。いただいたご意見を踏まえ、こういった設問が適切なのか、コンサルと引き続き調整をしてまいります。
33	市民一般	<G>地域の支え合いについて	問38	現在、現役世代で泊江をより住みやすくしたいと芸術や商工業など分野を超えて地域活動（居場所づくりや地域を活性化するイベントの開催等）に企画・運営として取り組んでいる仲間がいるが、そうした現役世代の活動は「健康づくり活動や趣味等のグループ活動」とはやや異なるものである。（「お世話役」という言葉もややそぐわない。）高齢者のみならず現役世代も回答しやすい設問となるよう、「健康づくり活動や趣味等のグループ活動、地域課題の解決に向けた自主的なグループ活動」など、併記していただけると良い。	対応いたしました。
34	市民一般	<G>地域の支え合いについて	問39	どのような活動に取り組んでいきたいと考えているか等、回答者の考えを引き出す設問が最後にあると良い。	対応いたしました。
35	子ども市民			市内の学校現場への協力依頼は小学4年生-中学3年生で良いと思うが、回答者の対象を高校生世代まで広げ、LINE通知では高校生世代までの方は「子ども市民調査」にご協力いただくよう案内しつつ、市HP等からも回答できるようにしておくというのは運用上さほど難しくないように思う。（市内在住の生徒はさほど多くないと聞いているが可能であれば泊江高校にも協力を依頼。）回答数は多くないかもしれないが、高校生世代も調査対象としていることを打ち出すことは重要であるように思う。	子ども政策課の実施するアンケートにQRコードチラシを同封し調査に協力してもらおう想定としております。
36	子ども市民			調査の趣旨としても困難を抱える子どもの声を拾い上げることにあるかと思うため、学校に行けていない子どもが回答しやすい工夫もお願いしたい。（ゆうゆう教室での調査協力、スクールソーシャルワーカーやこまメールへの協力依頼など）	不登校児童はipadを持ち帰っているため調査は可能ですので対応いたします。
37	子ども市民			授業中には回答しづらい項目もあるかと思うため、自宅にタブレットを持ち帰れる工夫、こども同士のプライバシーに配慮しつつ回答できる工夫、個人が特定されることはないから正直に書いて大丈夫である旨の声掛けなどを現場の教師の方にはご努力いただければと思う。	各校に確認をし、持ち帰り対応ができる学校には持ち帰り後回答をいただけるよう依頼します。

番号	調査票	項目	設問No.	ご意見	回答
38	子ども調査			中学三年生は受験シーズンのため、都立二次も終わった3月10日以降ならば落ち着いてアンケートに協力できるのではないかと。対象を中学二年生に変更するのは難しいか。	できる限り児童・生徒・学校に負担とならないように設問及び運用を検討します。
39	子ども調査			何のためのアンケートなのか説明があると良い。	logoフォームにおいて説明を記載してまいります。
40	子ども調査			漢字が学習した内容以上のものが使用されている。学年習得レベルより多少易しい書き方であれば学習が遅れがちな子どもにも読みやすくなる。	ルビの対応を進めます。
41	子ども調査			「書類」は「プリント」にする等、表現を容易にしたほうが良い。 「新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛を除く」は子ども(特に小学4年)には理解しづらい。	表現等の見直しを行いました。
42	子ども市民			子どもが回答しやすいよう、絵を配置したりゲーム感覚で進められると良い。	LoGoフォームの仕様上、難しい部分もありますが、可能な限り答えやすいよう修正いたします。
43	子ども市民			学校に来ていない子にこそアンケートに答えて欲しいが、学校によってはタブレットを持ち帰らせていない可能性がある。全員がアンケートを答えられるように配慮が必要である。	No.36のとおり対応いたします。
44	子ども調査	I. あなたの基本情報について	問3	健康状態について「あまりよくない」「よくない」と回答した方には理由を聞いた方が良いのでは。	回答可能時間が限られるため設問数を増やすことについては見送らせていただきます。
45	子ども調査	II. ふだんの生活について	問6	(1)授業中に居眠りすることが多い 中3は問題ないが、小4は「居眠りすることがある」の方がベターでは。年齢的に、たまに居眠り、少し居眠りでも気になる。 (3)持ち物の忘れ物が多い 「持ち物」と限定せず わすれものが多いで良いと思う。 (6)修学旅行などの宿泊行事を欠席する 市内公立校では小学4年生までは宿泊行事がない(特別支援学級にはある)。中学生への設問のみで、修学旅行などの宿泊行事に参加しなかったことがある(体調不良をのぞく)が的確かと思う。 (9)友人と遊んだりおしゃべりしたりする時間が少ない 親しい友人が少ない/自由時間が少ない どちらともとれるのではないかと。	表現の見直しを行いました。なお、(9)に関する肢については(7)の肢がございませぬため問題は無いのではないかと考えます。
46	子ども調査	II. ふだんの生活について	問6	4 部活動や習い事を休むことが多い 中学3年生→部活動や塾・習い事 小学4年→塾や習い事	表現等の見直しを行いました。
47	子ども調査	II. 普段の生活について	問7	梶川委員から指摘のあったとおり、ひきこもりではなく不登校傾向の設問に変え、内容をコンパクトにすると良い。不登校になったきっかけについては、「家庭環境による疲れや生活リズムの乱れ」を選択肢に加えると今回のアンケート主旨に合っていて良い。 引き籠りと発達障がい結びつけるイメージを与えかねない設問は避けて頂きたい。当事者でありながら小中学生の年代では障がい告知を受けていない子どもも少なくなく、必然性なくこのワードを出さない方が良い。	表現等の見直しを行いました。

番号	調査票	項目	設問No.	ご意見	回答
48	子ども調査	Ⅱ. 普段の生活について	問7	小中学生で「仕事」をしている者はほばいないのではないかと思うので、「学校や習い事」などの記載が良い。また、フリースクールや地域の居場所には出かけるというお子さんもいるかと思う。	表現等の見直しを行いました。
49	子ども市民	Ⅱ. 普段の生活について	問7-3	小中学生のひきこもり状態とはすなわち不登校の状態であるため、問7-3の選択肢全般を見直していただきたい。文科省の不登校調査では最初に学校に行きづらいつと感じ始めたきっかけとして、「先生のこと」「身体の不調」「生活リズムの乱れ」「きっかけはわからない」「友だちのこと」等が多く回答されている。	表現等の見直しを行いました。
50	子ども調査	Ⅱ. ふだんの生活について	問7-3	選択肢10 事故や犯罪被害 に「加害」を加えた方が良い。加害者になったことがきっかけでひきこもり状態になる可能性があるため。	狛江市の刑法犯認知件数からしますと、「先生とうまくいかない」というような肢の方が意見が多いと思われることから修正いたしました。
51	子ども調査	Ⅲ. 悩みごとや支え合いについて		「支え合い」は子どもにあまり縁がないので「助けてくれる人や場所について」等が適切かと思う。	削除いたしました。
52	子ども調査	Ⅲ. 悩みごとや支え合いについて	問8	1 友人との関係のこと →小4 「友だちのこと」 2 学業成績のこと →小4 「勉強のこと」 3・4 →小4 「しょうらいのこと」 5・7 →小4 「家にお金がないこと」 6 塾(通信含む)や習い事ができない →小4 「塾や習い事をやらせてもらえない」 8 自分と家族の関係のこと →小4 「自分と家にいる大人やきょうだいとの関係」 9 家族内の人間関係のこと →中3 「家族内の人間関係(両親の不仲、暴力など)」 / 小4 「家にいる家族のこと」	表現等の見直しを行いました。
53	子ども調査	Ⅲ. 悩みごとや支え合いについて	問8	6 塾(通信含む)や習い事ができない サッカーがうまくならない、等の出来不出来ともとれる。	表現等の見直しを行いました。
54	子ども調査	Ⅲ. 悩みごとや支え合いについて	問8	「10 病気や障がいのある家族のこと」のままでも良いと思うが、きょうだい児など障がい児／者のケアに両親が労力をとられて自分がケアされない悩みと、保護者の病気・障がいにより自らがケアされない、子どもがケアをしなければならない2つの可能性が含まれてしまう。親が発達障がいを含め精神疾患の場合、子どもには病気を秘匿したり本人も疾病や特性の自覚がない場合があり、小学4年生の設問では具体的に設問を変えるか「健康でない家族のこと」にしてはどうか。	障がい＝健康ではないともとられかねませんので、対応は見送らせていただきます。
55	子ども調査	Ⅲ. 悩みごとや支え合いについて	問10	選択肢に「プレーパークや地域の居場所」など、民間の子どもの居場所についても選択肢に含めていただくと良い。	使用頻度が低いと思われる店と入れ替えました。
56	子ども市民	Ⅳ. 家族のケアについて	問13	文科省の「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」では、大学生世代に「ケアをする人が現在はいないが過去にいた」という選択肢を設けている。今回の調査でも、中学生ぐらいになると、「現在はいないが過去にいた」というお子さんがいるかもしれないため、その選択肢も加えても良いのでは。問13-2以降の進め方は「いる」と回答した方と同様で良いと思う。	「過去にいた」を追加いたしました。

番号	調査票	項目	設問No.	ご意見	回答
57	子ども調査	IV. 家族のケアについて	問13-2	回答の仕方が分かりづらい。	分かりやすく答えられるよう回答方法を見直します。
58	子ども調査	IV. 家族のケアについて	問13-5	〇はいくつでも、とあるが1つだけではないか。	表現等の見直しを行いました。
59	子ども調査	IV. 家族のケアについて	問16-2	選択肢10 所の人は「近所の人」ではないか。	表現等の見直しを行いました。